令和３年度　**学校だより**　７月号

～ひとがすき　まちがすき　いわさきの子～

横浜市立岩崎小学校　　電 話 ３３１－５１２３　　ＦＡＸ ３３１－５３４３

持続可能な社会の創り手となることができるように

校長　小林　雅弘

近年の科学技術の進歩は凄まじく、私たちの生活はどんどん便利になっている一方で、今のままでは環境、経済、社会の様々な面で持続が難しくなると言われています。将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、今を生きる私たちが自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組むことで、問題解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらすことが重要です。昨年度から全面実施になった新しい学習指導要領では、「持続可能な社会の創り手」を育むために**ＥＳＤ**(Education for Sustainable Development)＜持続可能な開発のための教育＞を進めていくことが求められています。

最近、テレビやネットなどで「**ＳＤＧｓ**」(ｴｽ ﾃﾞｨｰ ｼﾞｰｽﾞ)という言葉を耳にします。これは2015年国連サミットで全会一致で採択した「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標です。具体的には次の17こです。

私たちはSDGsの推進に協力します

教育はＳＤＧｓの目標４に位置付けられていますが、「教育がすべてのＳＤＧｓの基礎」という考え方から、ＥＳＤをより一層推進することが、ＳＤＧｓの達成に直接・間接にながっていると捉えることができます。つまり「ＳＤＧｓにある17の目標を達成していくために教育課程の中にＥＳＤの視点を盛り込むことが大切」であると言えます。ＥＳＤの視点に立った学習活動で重視する能力や態度にはどのようなものがあるのでしょう。それには、左下の７つが挙げられます。

①批判的に考える力
②未来像を予測して計画を立てる力
③多面的・総合的に考える力
④コミュニケーションを行う力
⑤他者と協力する力
⑥つながりを尊重する態度
⑦進んで参加する態度

これらの能力や態度を身に付けることは、すでに日々の教育活動を通して行っていることです。つまり、「新しい教育が始まる」と捉えるのでなく、**「これまで行ってきた教育活動を、ＳＤＧｓの目標を意識しながら再整理していく」**という教育課程の編成・実施が重要であると言えます。今後、本校ではそのような教育課程を推進していきたいと考えています。